令和６年度(2024 年度)　学校評価書

学　校　名	北海道南茅部高等学校

学　校　関　係　者
学 教 運 営 協 議 会 委 員
回答:13 名中13名(校長を除く)

1　学校教育目標

確かな学力を培い、自主的で心豊かなたくましい生徒を育成する。

2　スクール・ミッション

○地域の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成

○生涯にわたって学び続ける姿勢をもち、協働的に社会に参画することができる生徒の育成

3　年度の重点目標

探究的な活動を取り入れた教育活動を推進し、学びに向かう力を育成する。

4　自己評価結果

評価基準

A:達成している　B:おおむね達成　C:やや不十分である　D:不十分である

5　学校関係者評価

（1）自己評価の適切さ

A　適切な評価である　B　ほぼ適切な評価である　C　やや不適切な評価である　D　不適切な評価である

（2）改善に向けた取組の適切さ

A　十分な効果が期待できる　B　ほぼ十分な効果が期待できる　C　あまり効果が期待できない　D　全く効果は期待できない

領域	重点事項	評価の観点	達成状況	改善・充実の方策	(1) 自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ
Ⅰ 教育	❶ エビデンスを踏まえた「わかる授業」の実践を図り、基礎・基本の学力を定着させる。	① 教師が主体的に学び続け、授業評価や客観的なデータをもとに、授業改善を推進することができたか。	B	①校長をはじめ管理職との面談による対話をとおし、「わかる授業」や研修奨励など、改善が進んでいる。今後も対話や情報提供をとおし授業改善に取り組む。	3.6 A 8 B 5 C D	3.5 A 7 B 6 C D
	❷ 探究活動を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、自ら課題を発見し、考察し、表現できる能力を育てる。	② 各教科及び総合的な探究の時間において、生徒一人一人が課題を設定し、地域資源の活用や地域課題の理解が進んだか。	B	②教育機関や事業所など、地域との連携や協力を得ることで改善が進んだ。地域の良さやその活用について発信できるよう、継続して学びの深化を図っていく。		
	❸ 少人数指導の特性を生かし、個に寄り添った授業を推進し、主体的に学ぶ意欲を高める。	③ T-base のメリットを生かした多様な科目選択や学び直し、家庭学習など、個に応じた指導が推進できたか。	B	③科目選択は、進路目標等に合わせた選択ができた。義務教育段階の学力の着実な習得や主体的な学びについては、個別最適化の取組とともにさらに改善を図っていく。		
	学校関係者の意見	**○標準・応用的な学習支援から学び直しの対応まで、生徒個々の実情や進路希望に合わせた取組を充実させてほしい。** **○7時間目や8時間目の学習支援など、先生方の熱心な指導により進級できた事例を知り、感心した。**				
Ⅱ 生徒	❶ お互いを尊重し合う良好な人間関係づくりを進め、いじめを見逃さない安心・安全な学校をつくる。	① 日常的な観察や面談、定期的な情報交換をもとに組織で対応し、いじめの未然防止や積極的な認知、早期解決が出来たか。	A	①今年度の認知件数は0件。SCや年3回の教員との教育相談、いじめに関する情報を毎月共有する校内体制のもと、いじめの未然防止、早期発見・対応等に努めることができた。次年度も取組を継続する。	3.8 A 10 B 3 C D	3.7 A 9 B 4 C D
	❷ 行事を通して生徒の発達を促し、生徒一人一人の自己肯定感及び自己有用感を高める。	② 各種行事や外部との事業において、生徒が活躍する場面を増やし、生徒自らが企画、運営、振り返りをすることができたか。	A	②中学生体験授業や生徒会行事等で、生徒自身が企画・運営する場面を設け、主体性が育まれるよう促した。次年度も自己肯定感・有用感を高める取組を継続していく。		
	❸情報モラルを適切に身に付け、積極的に情報社会に参画する態度を育てる。	③ 講演や啓発を通じて SNS 等の適切な利用について理解を深め、様々な活動場面に応じた ICT の利活用が進んだか。	B	③講演会や授業、HR 等を通じ、情報活用の利便性とリスクを理解させてきた。繰り返し啓発を行って自己指導力を高めることが肝要であり、次年度も取組継続していく。		
	学校関係者の意見	**○行事や各種教育活動を通じて安心、安全な学校づくりを推進していることがわかり、また、今年度はいじめ案件がゼロであることも併せ、評価できる。**				
Ⅲ 進路	❶ 生徒個々の適性を見極め、生徒一人一人に適切な勤労観・職業観を育てる。	①異校種との連携を強化し、キャリアパスポートを活用するなど、早い段階からのキャリア教育の浸透を図り、インターンシップなど計画的に実施しできたか。	B	①インターンシップや学校・企業見学会、各種説明会など、外部と関わる取組を実施し、勤労観・職業観の育成を図った。異校種との連携、キャリアパスポートの活用方法などは、さらに改善を図っていく。	3.6 A 8 B 5 C D	3.6 A 8 B 5 C D
	❷ 進路希望の実現に向け、主体的に進路について考え、必要な知識を習得しようとする態度を育てる。	②面談など個別指導を計画的に進め、生徒の実態、保護者の考えなどを踏まえ、進路希望の実現に向けた支援ができたか。	B	②三者面談や、教育局進路支援員の講話、模擬面接等を計画的に実施し、3年生全員が進路を決定し卒業できた。今後も3年間を見通した各種取組を計画的に行い個々の進路実現を支援していく。		
	❸ FU、BS コースの特色を生かし、卒業後のステージでも活躍できる資質・能力を育成する。	③生徒の向上心を醸成させ、講習や模試の受講、検定や資格取得など必要なスキルを着実に身に付けさせることができたか。	B	③向上心を持たせて資質能力を育み、主体的な取組を支援するには支える指導はさらに改善の余地があり、生徒の実態に応じたコース選択や T-base の活用、検定試験の推奨に一層努めていく。		
	学校関係者の意見	**○全員が進路を決定しての卒業や、入学の難易度が比較的高い専門学校への進学実績は評価できる。** **○来年度、再来年度は卒業生がさらに少なくなるので、個々の進路実現に向けた個に応じた指導をさらに充実させてほしい。**				
Ⅳ 健康・安全	❶教育相談活動を充実させ、生徒一人一人の心の健康維持に努める。	①こどなカウンセリング、ステップアップ・プログラム、パートナーティーチャーなどを通じて情報を共有し、保護者、SC、SSW と連携するなど、適切な支援ができたか。	A	①関係組織を中心に、計画的に実施できた。また、生徒や保護者の困り感に寄り添った対応を、 SC、SSW 医療機関など外部の専門家と連携することによって効果的に進めることができた。次年度も取組を継続していく。	4.0 A 13 B C D	3.9 A 11 B 2 C D
	❷ 健康教育やモラル教育をすすめ、健全かつ健康的な生活を心がける資質を身に付ける。	②HR 活動、講演会、授業や保健だより等を通じて、健康の大切さ、倫理観を醸成することができたか。	A	②社会性・協調性の育成に向けた共有フロア化（2階に全学年のHR教室設置）の取組や教育活動全般をとおし、倫理観醸成や健康の大切さについて、概ね理解の浸透を図ることができた。次年度も取組を継続していく。		
	❸防災や防犯、交通事故など危機管理意識を高め、自助、共助を理解し、適切に行動できる資質・能力を育成する。	③地域の特性を理解し、こども園との合同避難訓練や警察と連携した防犯教室などを実施し、理解の浸透が進んだか。	A	③概ね計画どおり実施できた。こども園との合同避難訓練は地域防災を念頭に、支所や消防からの助言も生かし、次年度も自助、共助、公助の観点を踏まえ、より実践的で効果的な実施を継続する。		
	学校関係者の意見	**○教育相談体制や心身の状況を把握する各種取組など、生徒の心身の状況に配慮した取組が充実していることがわかり評価する。** **○中学時代に不登校だった生徒やその保護者への対応・取組がしっかりなされ、進級・卒業に結びついていることを評価する。**				
Ⅴ 地域	❶学校運営協議会を通じて、地域の思いや考えを魅力ある学校づくりに反映し、実行する。		B	委員の意見を踏まえた魅力ある学校づくりに努めた。令和9年度の募集停止を受け、令和11年3月の閉校となるが、委員の意見、地域の思い等を反映した生徒ファーストの学校経営を進めていく。	3.7 A 9 B 4 C D	3.7 A 9 B 4 C D
	❷地元の中学生、小学生及びその保護者、学校関係者に自校の取組や実践を発信し、地域の教育ニーズに応える。		B	学校HPや学校だよりで情報発信を行ってきた。小中学校や地域との連携を図り、次年度もニーズを踏まえた教育活動を継続する。		
	学校関係者の意見	**○変化が激しく課題も多い中、地域の特徴を踏まえた多様な教育活動推進は地域の学校としての役割を十分に果たしている。** **○地域の事業所やこども園・小中学校等と連携した教育活動を通じ、生徒の成長が図られていることを評価する。**				

※「達成状況」については、教員による「自己評価」の平均パーセンテージの、85%以上を「A」、60%以上85%未満を「B」、60%未満を「C」として記載。